

交通安全啓発バスマップを用いた「公共交通利用×交通安全」に関する意識改善のためのモビリティ・マネジメント施策 ～開発途上国における実践から～

津村 優磨 / 清水 昂 / 川口 裕久
 (株式会社オリエンタルコンサルタンツグローバル)
 谷田 貝 哲 (バスマップ沖縄)
 齋藤 春佳 / 清水 伸春 (株式会社アンジェロセック)
 入江 哲之 (株式会社オリエンタルコンサルタンツ)

1. 背景と目的

- 開発途上国の都市では**交通ルールに係る教育や周知が十分ではなく**、公共交通の安全で円滑な運行を妨げており、**交通安全教育・啓発が喫緊の課題**。
- 加えて、このような都市における公共交通へのニーズは高いが、**バス停等のインフラ整備は進んでおらず**、**運行情報は十分に提供されていない**。
- そこで本稿では、コンゴ民主共和国キンシャサ市における実践として、**バスマップを活用したモビリティ・マネジメント施策により、現地の課題である利用者の「公共交通利用×交通安全」の意識改善を目的とする**。

2. 対象都市 / 対象事業者

- 対象都市は**コンゴ民主共和国キンシャサ市**であり、本取組はJICAの技術協カプロジェクトの一環として実施した。
- 同国の首都であり、人口**13百万人(2017)**を擁するサブサハラ・アフリカ有数の大都市圏である。
- 同市に市民を対象とした唯一最大のバス事業者である**バス公社「Transco」**(運輸省傘下)を対象とした。



3. バスマップのコンセプト・デザイン

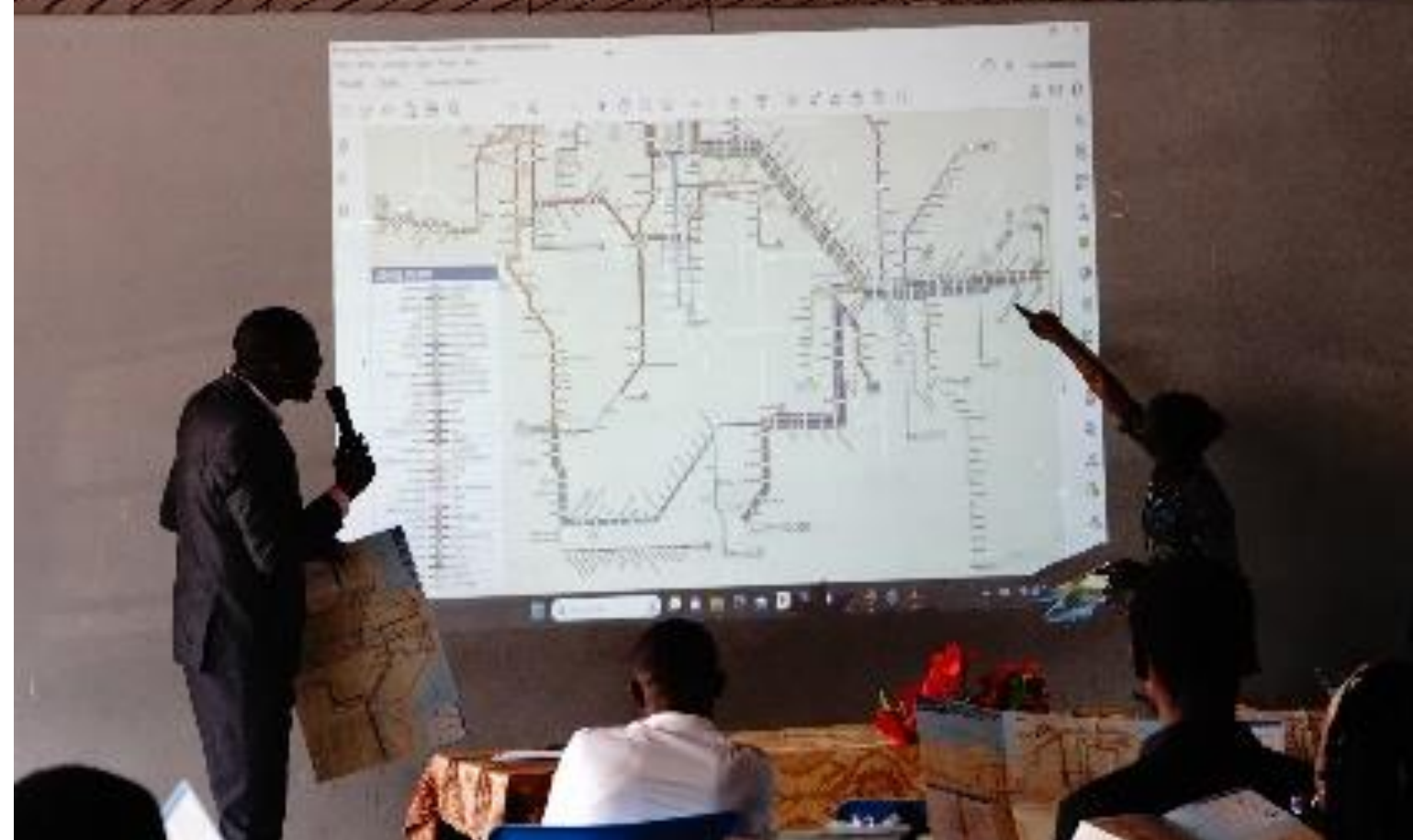
「バスマップを通してバスに安全・安心して乗車するきっかけを
 利用者に提供すること(公共交通利用×交通安全)」

- 2016年から更新が止まっていたTranscoの路線図を更新する形で、「公共交通利用×交通安全」をコンセプトとした**交通安全啓発バスマップ**を作成し、**モビリティ・マネジメント(MM)施策の第一段階として活用**。
- 日本におけるバスマップに係るノウハウと知見を活かしてデザインを全体的に見直し、**路線情報を最新のものに更新するとともに、バスの安全な乗降を促すきっかけを提供する情報を合わせて掲載**した。
- 地図に係る**空間認識能力が低い現地の実情を踏まえて**、次のような点に配慮し、**利用者にとって見やすい機能性の高いバスマップを目指した**。
 - 方面別に同一系統の色でまとめることで、目的地に応じた路線番号を見つけやすいデザインとすること
 - 途中まで同一経路の路線については複数路線を同一色で束ねることで、特に中心部における煩雑さを軽減すること
- 対象都市における**交通ルールの認知度の低さ**を考慮して、交通安全を担当する国家交通安全委員会(CNPR)と連携し、バス乗降手順とともに守るべき**交通ルールについて直感的に伝える8コマのイラスト**を掲載(以下、例)
 - バス停に向かう際、横断歩道を利用して安全に道路を横断すること
 - バス待ちの際には安全な場所で整列して待機すること
 - 車内事故防止のため、高齢者、妊婦や障害者等へ座席を譲ること
 - バス車両の前後の横断は危険であり、横断しないこと

4. 交通安全モビリティ・マネジメントへの活用

- キンシャサ市のパイロットプロジェクト対象地区において、**大学生計288名および小学生計201名を対象とした交通安全キャンペーン**をパイロット活動として実施。
- 交通安全バスマップを動機付け資料(MMツール)**として活用の上、現地のカウンターパートと連携した「交通安全」や「バスマップの使い方」に関する講義を実施。
- TFPの知見を援用した**公共交通利用時における交通安全意識に関するコミュニケーションアンケート**を合わせて実施。
- アンケート調査の結果、参加した学生の**交通ルール遵守に関する行動意図が形成**。

交通安全バスマップの使い方の説明(大学生)



バスの利用方法に関する説明(大学生)

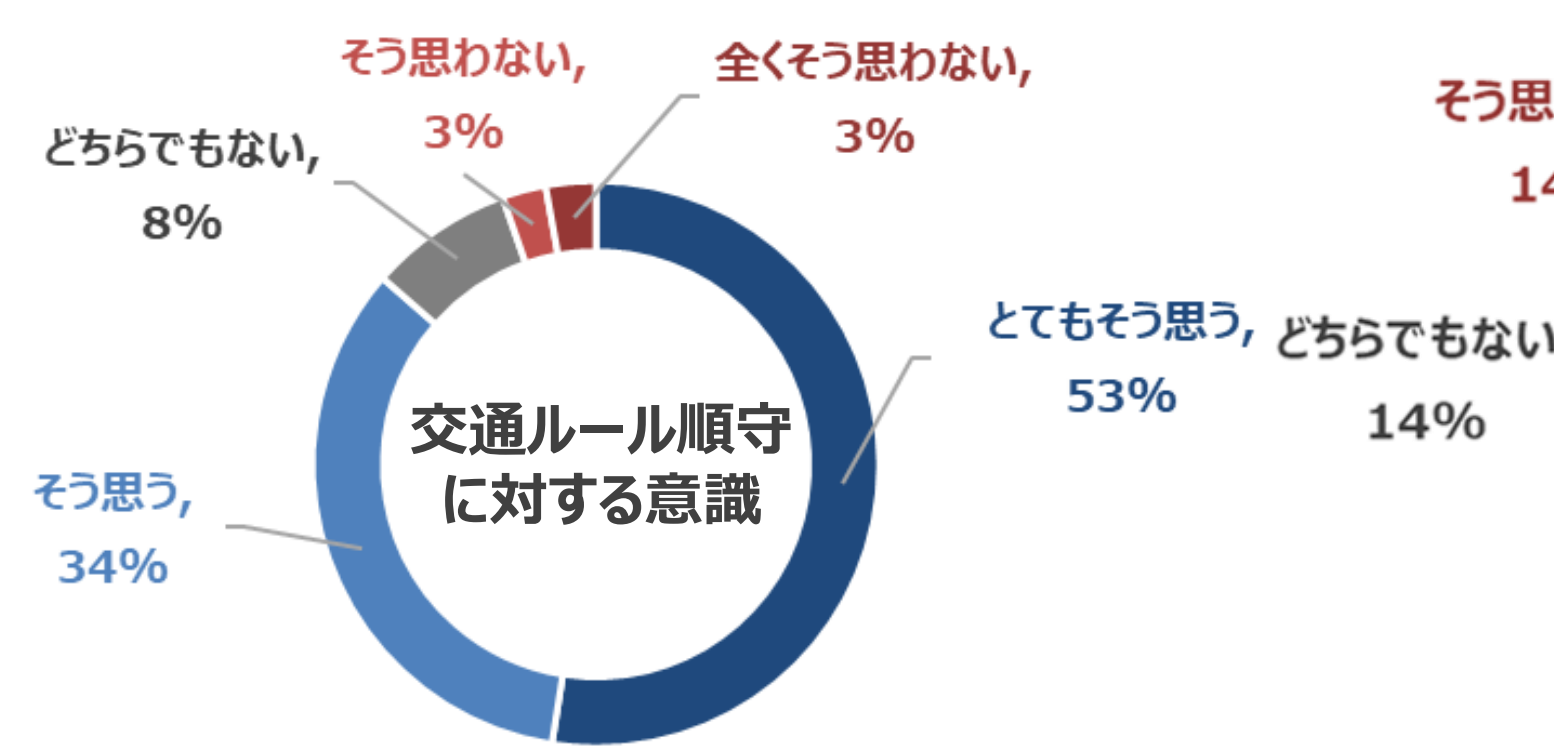


交通安全バスマップの使い方の説明(小学生)

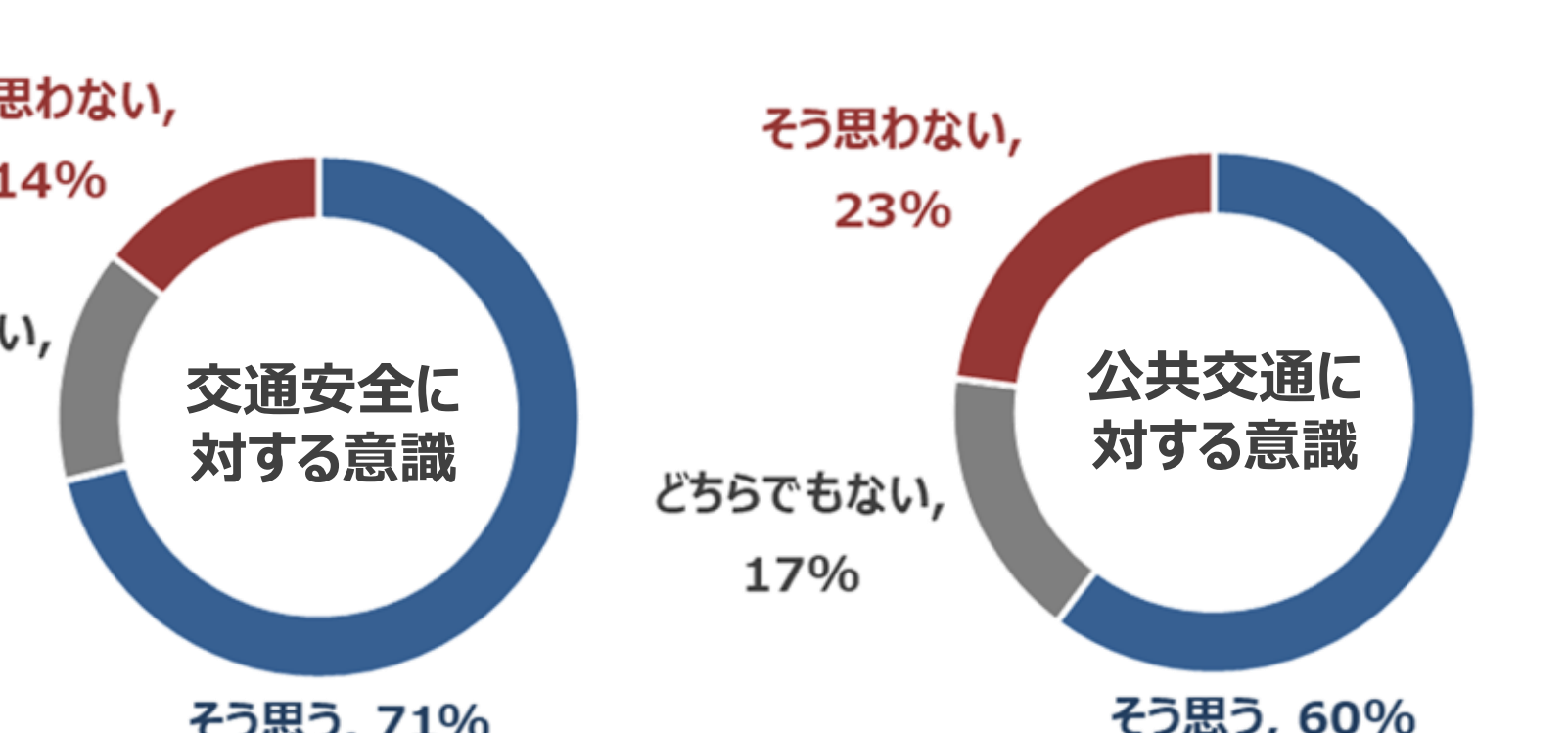


バスの乗り降り体験(小学生)

通学中公共交通を利用する際に
 今後は交通ルールを順守したいと思いますか?
 (大学生アンケート: N = 280)



交通安全キャンペーンの参加後、
 子供の意識は改善したと思いますか?
 (小学生 保護者アンケート: N = 83)



5. 今後の展開に向けて

- 一連の活動を通して、**同国において前例のなかった公共交通利用に着目した交通安全教育(公共交通利用×交通安全)**に関する経験やノウハウを現地のバス公社(Transco)をはじめとしたカウンターパートに提供することができた。
- 今後のカウンターパートによる**自律的なバスマップの更新とともに、長期的な交通安全モビリティ・マネジメント施策に係る取り組みの実践が期待される**。

